うぇるかむ

WELCOME YAMAGATA! COMMUNICATION FREE PAPER.

YAMAGATA

山形に避難されている方へ伝えたいメッセージ

第 42 号

つながろう！ささえあおう！
復興支援プロジェクトやまがた
TEL 023-674-7311
E-mail kizuna@yamagata1.jp
発行数：4,000 部

CONTENTS

・一面　　気仙沼のさんま２０００匹を振る舞い
・福島県　ママにもできる！ Let's プレパレーション講座
・宮城県　第一回寄りあい NIPPON
・山形県　学習支援という形／第１回 伊達市避難者交流会 in 米沢
・今月のキーワード 「子ども・被災者支援法」
・伝言板　・みんなの声　・おすすめ情報　・ひと休み
・しあわせココロのつくりかた⑭　・編集部より

気仙沼のさんま２０００匹を振る舞い

９月22日（日）、晴天の中おこなわれた「第２回気仙沼さんま祭り」。会場の山形市霞城公園には、大漁旗がなびき、香ばしいさんまの煙が漂いました。

先着２０００名に無料提供されるさんまを目当てに、会場では公園の外まで伸びるほどの大行列ができました。気仙沼からは「ホヤぼーや」、地元山形では「ペロリン」などのゆるキャラも応援にかけつけ、宮城県から山形へ避難されてきた方にも食べていただくなど、おいしいさんまを頬張りながら多くの人が楽しいひとときを過ごしました。

また、このイベントでは、多くのボランティアの人たちが、設営やさんま焼きに尽力しました。参加した大学生は、「復興の役に立てることは少ないが、今日は笑顔で『ありがとう』を言ってもらえた」、「必死に焼いて達成感があった」と口々に感想を話していました。

この祭りの主催は「やまがた気仙沼会」。気仙沼の歴史、自然、人を愛し、その素晴らしさを将来に伝えるとともに、東日本大震災の復興を末永く支援するため、山形県内に在住する気仙沼関係者が集まった団体です。

会長の武田満さんは、「３．１１のあの大震災が月日が経つにつれて忘れられていくようで、現地の被災者は辛い思いをしている。さんまを食べて気仙沼に想いを巡らせてほしいという気持ちがあります。みんなで被災地を応援しよう！」と話してくれました。イベントの経費は、協賛金や寄付がメイン。たくさんのあたたかい心が、イベントを創り上げていました。（海）

写真提供：やまがた気仙沼会

復興ボランティア
支援センターやまがた

Twitter

facebook

http://www.facebook.com/fvsc.yamagata

紅葉の美しさに触れ、木の実を楽しもう

自然と人間を学ぶ会よりお知らせ

紅葉の季節になりました。赤くなる葉や黄色くなる葉、緑のまま落葉する葉、自然の装いは様々です。大人は自然から学び、子どもは松ぼっくりやどんぐりの実、ぎんなんやプラタナス、クルミを拾って遊びましょう。

青空高くそびえる木々の下で、自然の中で秋の日を楽しみましょう。

日時：11 月 10 日（日）10：00 ～ 13:00

☆霞城公園内駐車場集合（霞城公園北口からお入りください。）

☆参加費は無料、雨天の場合は中止になります。

持ち物：軍手、運動靴、昼食、飲み物、敷物、木の実を入れるビニール袋

［申込み］自然と人間を学ぶ会　TEL：023-641-7140（佐藤）

「つながろう！ささえあおう！復興支援プロジェクトやまがた」事業は、山形県の「平成25年度復興ボランティア支援センターやまがた運営費補助金」の助成を受けて活動しています

From 福島

ママにもできる！ Let's プレパレーション講座

福島市の「チェンバおおまち」にて、９月７日「ママにもできる！Let's プレパレーション講座」が開かれました。

プレパレーションとは、子どもが検査・治療・手術など未知の出来事に臨む際、子どもの目線に立った言葉と方法を用いて、子どもの心の準備を促す関わりのこと。福島の子ども達のためのプレパレーション支援を行っている「福っ子のプレパレーション実行委員会」の看護師さんが、実体験などの話を交えながら、分かりやすく説明してくれました。「普段は病院などで医療者が行っているプレパレーションを、子どもが一番信頼している親から受けることで、大きな支えになっていくと思います。多くのお母さんにプレパレーションを知ってもらいたい」と看護師さん。

震災後、福島の子ども達は原発事故後から、ホールボディーカウンターや甲状腺検査など、事故さえなければ受けなくてもよい検査を、受け続けていかなくてはならなくなったことが、活動のきっかけとなったそうです。

我が子の恐怖心や不安を少しでも和らげてあげたい…とお母さん達は真剣な表情。検査の前に自宅で、どうして検査が自分たちに必要か、ということを話すことで子ども達自身が理解をし、そして親が子どもの気持ちに寄り添い、同じ目線で一緒に対処方法を考えていくことが大切ということを学びました。（榊井）

From 宮城

第一回寄りあいＮＩＰＰＯＮ ～東北から日本の未来を創造する円卓会議～

震災から2年半が経過した9月11日、仙台国際センターで円卓会議「第一回寄りあいＮＩＰＰＯＮ～東北からの日本の未来を創造する円卓会議～」が開催されました。認識や情報のギャップを埋め、具体的な変化を起こし、東北の復興を加速させることをめざす会議です。「地域創造基金みやぎ」などが主催し、東北各地からＮＰＯ、企業、行政の人たちが約１５０人参加しました。

岡本全勝復興庁統括官の基調講演後、復興の推進に関わる３つの共通テーマ「自立とコミュニティーづくりの課題の整理」「観光と人材交流の持続性」「子どもの遊びと学び」の分科会がおこなわれ、課題をどのように乗り越え、次の展開を見出すかなどを話し合いました。

被災した地域では、平常時の社会の課題がより一層顕著に現れていますが、被災した地域特有の課題ではなく、日本においても内在している共通の課題。平常時からの地域の在り方が、防災・復興を円滑に進めていくための基盤となることを改めて感じました。（石山）

【連絡先】
一般財団法人　地域創造基金みやぎ
担当：吉田
〒980-0804　宮城県仙台市青葉区大町
1-2-23 桜大町ビル 303
TEL:022-748-7283　FAX: 022-748-7284

シアワセコラム

しあわせココロのつくりかた⑭　シアワセコラム特別編

～カウンセリング・ルームの窓辺から～

カウンセラー・スピリチュアルケアアドバイザー　志村友理

「しあわせココロ…いつも癒されています。」そんな嬉しい言葉をかけていただくことがあります。知らないところで誰かの役に立っている。それってとっても嬉しいこと。きっと皆さんの周りにも起こっているはず。この「うぇるかむ」を作成しているスタッフさんも、誰かの役に立てればとの思いで一所懸命。

『うぇるかむを読んで連絡しました。みんなの前では明るく振舞っているけど、一人になると死にたいと思ってしまう…』そんな辛さを訴える方が増えています。誰にも言えない苦しみを抱えながら笑顔を作り生きるのは、どれ程辛いことでしょう。心の中の澱（おり）を流して、自分らしさを取り戻しませんか？

カウンセリング・ルーム　メール相談：ryokusuinomori@yahoo.co.jp

☆毎週金曜日１４：００～１６：００（11/1～）は「復興ボランティア支援センターやまがた」に行きます♪

気軽な相談をしたい方、お茶を飲みながらお話しましょう。

「復興ボランティア支援センターやまがた」（山形市松山３丁目１４－６９　FM山形ビル1F）

※駐車場はＦＭ山形ビル裏の２台分、大通り向かい側「ラーメン玄龍」裏に３台分（看板あり）があります。

From 山形

第１回 伊達市避難者交流会ｉｎ米沢

９月27日金曜日、おいたまサロン２階「ふわっと」にて「第１回伊達市避難者交流会ｉｎ米沢」が開催されました。

「伊達市から避難したという同じ境遇の方々が集まる事に意味がある」と、伊達市出身の人とその友だち計13名が参加し、ランチを兼ねた交流会となりました。伊達市役所からも賠償支援係長、健康推進課、こども育成課の方々が参加し、給食の放射能測定や線量バッジの結果などの現況について、質問や相談をしていました。

参加者の中には、「伊達市に戻りたい」と熱く話す姿もありました。「今まで電話で顔の見えない相手に問い合わせる事に虚しさがあったが、今回伊達市役所の方に直接話すことで希望が出てきた。話を聞いてもらい、気持ちが通じただけで何かが変わったと感じました。」

今後は、年度内に2回開催予定で、第2回目は平日働いてる方やパパ達も参加できるよう、土曜日に開催予定となっています。（橋本）

一人一人に寄り添いたい…学習支援という形

避難してきた平成23年、小学生や中学生だった子どもたちも、2年半を過ぎた現在は、中学生や高校生。

当初はとまどい、不安な中で山形県で通学し始めましたが、今では友達もたくさんできて、「ずっと山形にいたい」という子どもたちも多くいます。その一方で、元気のない親を励ましていたのに、だんだん息切れしてしまい、気力をなくし、学習低下を招いているケースもあるようです。「こんなに長くいるとは思わず、狭いアパートを借りてしまった」と言う保護者の方は少なくありません。

被災とは関係がなくとも悩み多い思春期ですが、「学習スペースが確保できない」、「方言が飛び交うクラスの雰囲気になじめない」、「どうしてもやる気が起きない」、「自分が被災していることを周囲にどう思われるか心配」、「震災がなければ…」等々、余分な悩み苦しみを抱えていることは否めません。

鶴岡で、夏から本格的に毎月一回開催している「週末寺子屋ｉｎ鶴岡」（子ども支援フェイスブックプロジェクト主催）は、そうした子ども達一人一人に寄り添い、親子を応援する場となっています。子どもたちが未来に向けて一歩ずつでも踏み出せるよう、皆で応援しています。（鶴岡市Ｓ）

伝言板

■南相馬市から山形に来ている方へ

「南相馬親睦会　芋煮会」が９月29日に開催され、45名の方の参加をいただきました。

会場の上山市須川河川敷「化石の森」は、古代木が沢山埋没している河川敷で幹事団体の『ＮＰＯ「化石の森」のかい』が、公園として整備しています。地上に露出している30cmほどの２万年前の古代木を目にしながら、古代ロマンと芋煮に舌鼓をうち、同郷の方と語らい、蔵王山頂を観光し楽しいひとときをすごしました。

南相馬親睦会は、山形県内に避難する同郷の方の近況を知り互いに親睦を深めることを目的に南相馬市から避難するご婦人達が中心となり運営されています。

親睦会イベントに参加を希望される方は、ご連絡ください。

☆南相馬親睦会　第三回交流会

１２月７日（土）１０：３０～１５：００

ヒルズサンピア山形（山形市蔵王飯田637）にて

※会費は1,000円～1,200円、バスの送迎有

詳しくはお問い合わせください。

［申込み］ＮＰＯ「化石の森」のかい　堀江光夫　宛

〒999-3146 上山市松山３丁目2-18

［問合せ］TEL　090-6626-4794（遠藤　17～20時）

■ままカフェ@ふくしま・こおりやま

久しぶりの福島での生活の事や、お子さんの事、ママ自身のことも含めて、みんなでおしゃべりしませんか？お子さんにはたくさんのおもちゃを、ママ達には美味しいお茶とお菓子をご用意して待っています。

いつ来ても、いつ帰ってもOK！　参加費は無料、申込みもいりません。お気軽にお越しくださいね♪

＜@ふくしま＞

日時：10月25日（金）　10：00～12：00
　　11月22日（金）　10：00～12：00
　　12月20日（金）　10：00～12：00

場所：福島市保健福祉センター３Ｆ　和室会議室
　　（福島県福島市森合町10-1）

＜@こおりやま＞

日時：11月14日（木）　10：00～12：00
　　12月12日（木）　10：00～12：00

場所：NPO法人　子育て支援コミュニティプチママン
　　（福島県郡山市富田町大徳南2-23）

［問合せ］

東日本大震災中央子ども支援センター 福島窓口

TEL 024-573-0150　FAX 024-573-0151

今月のキーワード
子ども・被災者支援法

昨年の6月、国会で、議員立法である「原発事故子ども・被災者支援法」が可決されました。

この法律では「放射性物質による放射線が人の健康に及ぼす危険について科学的に十分に解明されていない」と明記されていることが画期的で、その上で3つの権利を保障しています。

① 支援対象地域に「住む」
② 支援対象地域から「移住する」
③ 支援対象地域に「戻る」

放射能に対する考えの違いを認め、個々の考えに沿って生活する権利を保障しているのです。

山形の雇用促進住宅、借上げ住宅などの制度を利用している「避難者・移住者」に係わるところは以下の通りです。

■支援対象地域以外の地域で生活する被災者への支援（第9条）■

・支援対象地域からの移動の支援
・移動先における住宅の確保
・子どもの移動先における学習等の支援
・移動先における就業の支援
・移動先の地方公共団体による役務の提供を円滑にできるようにするための施策
・支援対象地域の地方公共団体との関係の維持
・家族と離れて暮らすこととなった子どもに対する支援等

また、この法律によって8月末に示された基本方針案は、その具体的な施策の内容を方向付ける重要なものなのですが、住宅の支援は期限付きで示され、また家族構成の変化等に伴った借上げ住宅の移動は不可となっています。（平成25年10月9日現在）

私たちのニーズにきちんと応えてくれるはずの「子ども・被災者支援法」。しっかりと自分たちの要求を伝えることが、今後私たちの暮らしを大きく左右することになるでしょう。

［記事・解説］
原発事故子ども・被災者支援法を考える山形会議
藤田　亜希子

１月に要望書を復興庁に提出しました

「子ども・被災者支援法」の全文はこちら
http://law.e-gov.go.jp/htmldata/H24/H24HO048.html

motto みんなの声

●保養先で知り合った方とお話会で再会することができ、とても嬉しかったです。子どもの健康、将来を考えると日々の生活に制限することもあり大変ですが、新しい出会いもあり、一つ一つの出会いを大切に過ごしていきたいと思います。（二本松市在住）

●震災後も年に3回は里帰りしています。今年の夏も家族揃って福島へ帰省しました。放射性物質は目に見えないので実家での生活は何も変わらなく感じます。でも大きな袋があちこちに。除染で出た汚染土と聞いてやはり大好きな故郷は汚されてしまったんだ……と胸が苦しくなりました。（東京都多摩市在住）

●「ママ、私たちはずっと山形に住むの？」と聞かれると、言葉につまります。「山形で暮らそうってお父さんと決めたの」と話すと「ここも楽しいよね」って。子どもたちの明るさがありがたいなと感じます。（郡山市―天童市）

●震災直後まだ1カ月だった息子。振り返ると放射能の事や水、食べ物など心配事ばかりで幼い息子の成長をゆっくり見届ける事が出来なかったと思います。山形へ避難して、念願の第2子を授かり無事に出産しました。この小さな命の成長を心穏やかに見守っていける山形での生活に感謝して育児を楽しみたいと思います。（郡山市―山形市）

「みんなの声」に　つぶやきを送ろう

kizuna@yamagata1.jp
に、タイトル「みんなの声」で送信してください。以前と今のお住まいの市町村も添えてね。
うぇるかむへの要望や意見、質問なども受け付けています。
ホームページのメールフォームからも送信できますので、お気軽にご利用ください!!

モバイル、スマホOK！

おすすめ情報

［すべての地区］

■ランドセル支援を行ないます

「がんばれ！被災地のこどもたち！！みんなでランドセルを贈ろう！」実行委員会では、現在でも必要とされるご家庭を対象にランドセルをお贈りさせていただきます。

◎対象の方：

1. 入学を迎える災害孤児を対象に、新品ランドセルを寄贈
2. 生活保護家庭･生活困難家庭の新入学児童のお子様を対象に、新品ランドセルを寄贈
3. 震災時に既に在学しており、なんらかの形でランドセルの提供を受けたが、汚損、破損がひどく使用に耐えられない状態である場合、再生ランドセルを寄贈

［申込方法］ご入学の小学校もしくは役場を通してメール、もしくは FAX にて承らせていただきます。

お申込用紙ダウンロードは下記ＵＲＬまたは QR コードから↓

http://www.fuwarii.com/contents/tokusetsu/cat41/

［申込み・問合せ］

「がんばれ！被災地のこどもたち !!

みんなでランドセルを贈ろう！」実行委員会

株式会社協和　広報課（皆川・若松）

TEL：03-3866-7478　　FAX：03-3866-8932

E-mail：ganbare@kyowa-bag.co.jp

☆「がんばれ！被災地のこどもたち！！みんなでランドセルを贈ろう！」実行委員会は、東日本大震災が発生した年に誕生されたお子様が無事にご入学されるまで、全力で応援していきます！

■みんなの写真コンテスト　～南相馬市のいま～

【南相馬市のいま】をテーマに写真コンテストを開催します。家族など日常のありふれた光景嬉しかった事、楽しかった事、悲しかった事など「南相馬のいま」を募集してます。

また、現在南相馬市に住んでいない方や南相馬市に訪れた市外の方でも、「南相馬市のいま」を感じる写真であれば応募可能です！

※携帯やデジカメ等で撮影した写真もご応募可能です。

※平成 25 年 1 月以降に撮影された写真が対象となります。

応募締切：10 月 31 日（木）

詳しくは下記アドレス、または QR コードから⇒

http://frontier-minamisoma.org/2013photocon.html

＜「みんなの写真展」開催＞

「みんなの写真コンテスト」最優秀作品および優秀作品、ご応募いただいたすべての作品を南相馬市民文化会館（ゆめはっと）ギャラリーにて展示します。詳しくはお問合せください。

日時：2013 年 12 月 7 日（土）～ 15 日（日）

主催：NPO 法人フロンテイア南相馬

TEL：0244-22-3500

［ 村山地区 ］

■手遊び・ふれあい遊び・赤ちゃんヨガ＆ベビーマッサージ・絵本の読み聞かせ

対象：生後 1 ヶ月～あんよ前までのお子さんとママ

日時：10 月 24 日（木）10:00 ～ 11:00

場所：山形県総合運動公園 2 階和室

日時：10 月 30 日（水）10:00 ～ 11:00

場所：山形市江南公民館 1 階第一研修室（和室）

費用：山形に避難されている方・うぇるかむを見たという方は 500 円（オイル代込）にてご参加いただけます☆ぜひお気軽に遊びに来てください♪

持ち物：バスタオル 1 枚、水分補給などいつものお出かけセット、ママは動きやすい服装でおいでください。

☆参加のお申込み・お問い合わせはコチラまで

Mail：lovejyu_mama_baby@yahoo.co.jp

・ママとお子さんのお名前・お子さんの生年月日・連絡先

・参加希望の日時を明記の上ご連絡ください。

ご参加お待ちしております♪

［問合せ］豊田春菜　TEL：090-6785-4950

［置賜地区］

■ほかでは聞けない放射能のはなし

いわき放射能市民測定室 Tarachine 代表 織田好孝氏を招き被災地での放射能被害の現状を語っていただきます。

なかなか無い機会です。ぜひご参加ください！

日時：11 月 23 日（土）13:00 ～ 16:00

場所：長井市置賜生涯学習プラザ（長井市九野本 1235-1）

参加料：500 円

［問合せ・申込み］（特）レインボープラン市民農場　遠藤浩司

TEL：090-1935-1609　FAX：0238-88-2260

MAIL：ncjcw627@ybb.ne.jp

■週末寺子屋　子ども大学 in 米沢

大学生のお兄さん、お姉さんと一緒に勉強しませんか？

日時：① 10/27,11/10,17,24, 12/1,8,15　13:30 ～ 16:30

※ 11/17,12/15 は臨床心理士の方の個別相談も可。（要予約）

②毎週月、火、木、金　16:30 ～ 18:00

対象：震災により来県している小・中・高校生

参加費：無料（日曜のみ協力金 100 円をお願いします）

場所：ふわっと（米沢市門東町 3-3-7　おいたまサロン 2F）

※最新情報は facebook をご覧下さい。

facebook：https://www.facebook.com/terakoya.kodomodaigaku?fref=ts

申し込みフォーム：

http://kokucheese.com/event/index/75550/

［問合せ］TEL：070-6475-3599(藤井)

Mail：terakoya.kodomodaigaku@gmail.com

うぇるかむは各地に設置しています

【山形市】復興ボランティア支援センターやまがた／村山総合支庁／山形県庁 1 F ロビー／山形市内の公民館・コミュニティセンター（28 施設）／山形県立博物館／山形市避難者交流支援センター／山形市総合福祉センター／山形テルサ 1F ／百目鬼温泉／真宗大谷派山形協会／立石寺華蔵院／ままカフェ＠ home ／福山ひろば／ふくしま子ども未来ひろば／あいびぃ保育園／りとる福島事務局／山形市市民活動支援センター／チェリア／イオン山形南店／生活協同組合共立社（CO-OP）（山形県内）／ひまわりマッサージ**【天童市】**天童市避難者サロン・AtTendo ひろば**【寒河江市】**寒河江市社会福祉協議会／フローラ SAGAE １Ｆ避難者交流ひろば／村山総合支庁西庁舎／寒河江市立図書館／寒河江郵便局／ゆ～チェリー**【上山市】**上山市社会福祉協議会／上山市まちづくりセンター「ござってぇ」／長屋門ギャラリー**【東根市】**東根市タントクルセンター**【村山市】**甑葉プラザ**【米沢市】**置賜総合支庁／避難者支援センターおいで／米沢市社会福祉協議会／米沢市すこやかセンター／アクティー米沢／米沢市立児童会館／ハラトク書店／鷹山の湯／おいたまサロン・ふわっと／ moto808**【南陽市】**南陽市社会福祉協議会**【飯豊町】**道の駅いいでめざみの里観光物産館**【高畠町】**高畠町役場 1F ／浜田広介記念館／永和軒**【川西町】**おきたまネットワークサポートセンター／おもいで館**【鶴岡市】**鶴岡市立図書館／フクシマの子どもの未来を守る家**【酒田市】**酒田市ボランティアセンター／酒田市公益活動支援センター／ NPO 法人にこっと**【庄内町】**庄内町社会福祉協議会**【三川町】**庄内総合支庁／イオンシネマ三川**【新庄市】**最上総合支庁**【金山町】**山形県遊学の森「木もれび館」**【福島県】**元気玉プロジェクト推進本部／うつくしまＮＰＯネットワーク／ＮＰＯ法人福島ライフエイド／ NPO 法人シャローム／子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク**【宮城県】**東北自動車道菅生ＰＡ上下／東北ろっけんパーク**【秋田県】**道の駅せんなん

ひと休み

エッ　麩のパン？！

しょうゆ麹蒸しパン

＜材料＞
底直径 5.5 ×高さ 3.5cm のカップ
5 ～ 6 個の分量

卵	2 個
砂糖	大さじ 6
しょうゆ麹	小さじ 2
牛乳	大さじ 2
サラダ油	大さじ 2
A　薄力粉	1 カップ
ベーキングパウダー	小さじ 2

＜作り方＞
①Ａは合わせ、ふるっておく。
②ボウルに卵、砂糖を入れ、泡だて器でよく混ぜる。しょうゆ麹、牛乳、サラダ油を順に加え、よく混ぜる。さらに①を加えて、よく混ぜる。
③カップに深さ 8 分目まで入れ、湯気の立った蒸し器に入れる。布巾で包んだふたをかぶせ。中火で 10 分蒸し、竹串で刺してなにもついてこなければ蒸し上がり。

レシピ提供：在来作物案内人　鈴木淳子さん

団体紹介　特定非営利活動法人 オープンハウスこんぺいとう

地域で行える助け合い、支えあいの一端として、年齢関係なく、0 歳児～高齢者までお預かりする介護施設を運営するとともに　山形県最上地域に避難されている方との交流会を定期開催しております。
人と人の関わりの中で人としての大切な事を学び、「見守り」「支援」しながら人間が人間らしく自分らしく尊重され意欲的に自立した生活を送っていただくためのお手伝いをさせていただきます。

９月２１日、こんぺいとうサークル「米粉ピザ作り交流会」を新庄市民プラザにて開催し、避難されている方と新庄市民の方が米粉を使用したピザ作りをしました。

同時に「福島県職員による避難者支援相談会」も同施設内で催されました。
日常の困り事の相談や交流会へ参加など　お気軽にご連絡ください。

お問合せはこちら
特定非営利活動法人
オープンハウス
こんぺいとう
理事長　川又 真貴子
〒 996-0022
山形県新庄市住吉町１番１２号
電話 ０２３３―２９－２３０１　メール　konpeit@agate.plala.or.jp

みなさまからの情報をお寄せ下さい！

避難されている方に伝えたいメッセージ、サービス、イベントなど、避難されている方からの声や要望など、みなさまからの情報をお待ちしています。「復興ボランティア支援センターやまがた」まで、ぜひお寄せください！

メールでの情報提供は　kizuna@yamagata1.jp
ＦＡＸでの情報提供は　０２３－６７４－７３１２

支援センターのサイトをご覧ください→ http://kizuna.yamagata1.jp/

編集部より

＊あっという間に夏が終わり、随分涼しくなりいつ長袖を着ようか迷いながらも7分袖の服で頑張っています♪（まき）

＊10月は衣替えで秋が深まる季節。紅葉を見ながら温泉♪なんていいね～。（じゅんちゃん）

＊秋本番。楽しいイベントも毎週開催されていますね。オススメは「マルシェ」。手仕事で丁寧につくられた雑貨やおいしい食べ物がいっぱい。買い物意欲湧き過ぎでタイヘンかも。（石山）

＊避難されたお母さん達も2年たち、出産ラッシュだそう。大変な事もたくさんあるけど、新しい命の話はうれしいですね。（多田）

＊避難者と知られたくない人が増え、イベント実施や通りすがりの取材に神経を使っています。（くまモン）

＊久々に風邪をひいてしまいました。朝夕の冷え込みの厳しさに皆様もお気をつけ下さい。（なつ）

＊11月より「しあわせココロのつくりかた」の志村さんが復興ボランティア支援センターやまがたに毎週金曜日来てくれることになりました。ゆっくりお話ししたい方、是非お越しください♡（サチ）

＊子どもの瞳に映るものを見ようとじっくり観察すると、単純でまっすぐで、おもしろくて愛おしい♪（海）

次号は 11 月 20 日発行です

情報提供や寄稿は、
11 月 1 日までにお寄せ下さい。
お待ちしてまーす！

避難者向けフリーペーパー「うぇるかむ」
発行元：つながろう！ささえあおう！
復興支援プロジェクトやまがた
〒 990-2412　山形県山形市松山三丁目 14 番 69 号
「復興ボランティア支援センターやまがた」
TEL 023-674-7311　FAX 023-674-7312
E-mail　kizuna@yamagata1.jp
WEB　http://kizuna.yamagata1.jp/